

福岡大学医学部同窓会

2001年春号
烏帽子会会報

30
号



■ 第20回烏帽子会總會のご案内

■ 部長奮闘記

目 次

・第20回烏帽子会総会案内	1
・会長挨拶	
「プロ」	高 木 忠 博 2
・退任挨拶	
福岡大学在任中の思い出	内 藤 説 也 3
・報告	
M6国試激励会	井 上 隆 則 4
・教室紹介	
衛生学教室	百 瀬 義 人 5
・連載 部長奮闘記	
「次世代の架け橋となるために」	今 田 達 也 6
・福岡大学医学部同窓会支部便り	
北九州支部会	坂 本 博 士 7
佐世保支部	山 川 裕 8
・キャンパス便り	
ムツゴロウに乾杯!	縄 田 秀 幸 9
部活の大切さ	土 倉 潤 一 郎 10
・訃 報	
故小野庸名誉教授追悼文	小 倉 丸 史 隆 12
江口 靖君を悼む	松 添 大 助 13
・福岡大学医学部同窓会資料	
教育職員人事	14
医局長医長名簿	15
福岡大学病院外来担当医表	16
福岡大学筑紫病院外来担当医表	17
・事務局からの連絡とお願い	18
・編集後記	19

第20回烏帽子会総会

第20回烏帽子会総会のご案内

ごあいさつ

21世紀にはじめての烏帽子会総会は4回生と14回生が幹事となって開催させて頂くことになりました。第17回の総会から当番制となり早くも今年で4年目となりました。先輩方のご尽力により、当番幹事制の総会も何とか軌道に乗ってきたのではないかと考えております。先輩方が創設されました伝統を遵守しつつ、同窓会の一層の発展に貢献出来たらと考えております。今年は特別講演にNHK福岡の山下信氏をお迎えし講演頂く事になっております。

「健康ほっとライン」という医療番組や「おっ

しゅい！ 福岡」(NHK総合午後6時)という番組を担当されている経験から、私ども医療に従事する者に取りまして興味深い話をして頂ける予定です。

同窓会総会は日頃、なかなか会うことが出来ない同級生、先輩、後輩と話し合える場であります。一同に集う事で福岡大学医学部同窓生の一体感が得られる事を願ってやみません。ご多忙とは存じますが、何とぞ万障繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

第20回烏帽子会総会委員長 柴田陽三(4回生)

第20回烏帽子会総会要領

日 時：平成13年7月14日(土) 場 所：西鉄グランドホテル

時 間：1) 同窓会総会 16:30～17:20

2) 特別講演会 17:30～18:30

3) 懇 親 会 18:45～

会 費：1万円

当番幹事：4・14回生

申 込：会報1ページ差込の葉書で6月20日までに郵送下さい。

特 別 講 演 会

演 者：山下信 NHK福岡チーフアナウンサー

テーマ：健康相談番組や「おっしゅい！ 福岡」という郷土番組を担当している立場から

総会に関するお問い合わせは下記までお願いいたします

総会委員長

柴 田 陽 三

Tel 092-801-1011 内線3465

e-mail yshibata@cis.fukuoka-u.ac.jp

会長挨拶

『プロ』

会長 高木 忠 博 (1回生)
(脳神経外科クリニック高木院長)



プロ野球選手、プロ棋士、プロゴルファー、と頭に『プロ』と付くこの言葉に付いての小生の一考です。アマチュアとの違いは、まず言葉は汚いですが、一言で言えば、『金を貰って仕事をする人間。』と言う事として、荒っぽく先ず定義してみましょう。してみると、賃金が払

われている巷の労働行為はすべからず『プロ』の仕事になります。しかし我々は、プロと言う接頭語を付けて何か或るモノを、或る言葉に乗せて欲求している様に思うのですが、如何でしょうか。その言葉は、『期待』と言う言葉ではないかと思えます。

そこで『期待』と言う漠然としたモノを何か計量する手立てはないかと周りを物色してみると、有るではありませんか！『経済』と言う人間の社会活動の中で発明された『貨幣＝金銭』と言う共通の尺度が！そこでこれを『期待』を計る物差しとして、プロと言う言葉を明瞭にする為に、この『金銭』と言う尺度を我々は使っているのだ、と小生は、思うのです。しかし、一方で次の様な定義をする考え方もあります。『賃金は、労働に対する代価である。』と言う定義です。この中の『労働』と言う言葉には、『期待』と言うニュアンスが非常に希薄な響きとして感じられると思えます。この定義を作った思考の根にある『労働』と言う事には、『労働は、義務である。』とでも言わんばかりの響きがあります。良く『働かざるモノ、食うべからず』と言いますが、言葉の源流を辿ると、きな臭い所に出ます。この『期待』と言う、非常に、不安定などうにでも解釈出来る『基礎（土台）』に乗って働く事に、手を挙げた『労働者』を、巷では、特別に『プロ』と言う言葉で呼ぶのではないのでしょうか？ですから、『プロ』と言う言葉を説明する時には、良く『エキサイティング』と言う言葉を使います。そして、必ずどういつ訳か、『厳しい』と言う言葉を付けて人は語ります。何がこの言葉を言わしめるのでしょうか？小生は、この『厳しい』と言う言葉を吐かしめる、原動力＝震源こそが、『期待＝期待権』だと思えます。何かを『プロ』に頼んで、自称プロと名乗った人間は、『Yes.』と言った瞬間に、『責任』と『期待』が同時にセットで発

生するのです。だから依頼者は、『期待権』と言う権利を持つ代りに、プロは、その代償として、『報酬＝金』と言う物差しを要求します。これで自由社会では『契約』と言うものが、公平に成立した事になります。もし不満ならば、簡単です。『No.』と言えば良いのです。又、この契約の中には、『・・・をしてやっている。』と言う言葉が、入り込む余地は、一切有りません。この『期待権』とは、要約すれば、依頼した事を、まず『報酬がとして貰う。』事を期待し請求する権利だと思います。この権利は、依頼主がOKを出した時、瞬時に消失してしまいます。このプロと言う仕事を選択してしまった人間にとっては、こんなに最高に不利な条件は無いと思えます。何せ、色々な事を考えている相手（人間）を、只、単純に『さすがプロ！』と頷かせなければいけないのですから。此にプロのプロ足る事の『真髄』が在る様に小生は思います。普通に我々が、『本物のプロだ！』と直感的に感じるのは、このリスクを、只、淡々と真摯に、何とも言い様のない信頼感を漂わせながら実績結果をしっかりと残して仕事をこなして行く聡明さ（英語の smart と clever の意味のニュアンスの違いにも通じる様に思います。）に、一目置き、或る種の『敬意』を、皆が『プロ』と言う人間に払うのだと思えます。又、プロは、自分自身に強烈な責任を負わせて、多分全力を尽くして仕事をしているはずですから、『責任』と言う言葉の、本当の意味、その取り方も熟知しているはずです。『プロの身の処し方』を見れば、そのプロが、『本物か？』、『偽物か？』は、一目瞭然に解ります。『責任から逃げる。』『責任を分散化する。』とかは、プロと名乗る人間にとっては、最も『忌む』べき姿に写るでしょう。小生は、この『プロ意識』が、どの位、その社会に浸透しているか、否か？によって、良く例えて言われる『大人の社会』と『子供の社会』と言う言葉の意味が、表現されていると思えてなりません。我々烏帽子会は、この『プロ意識』に重要な価値観を持って、周囲のモノ事を計り、自らを律し、我々の共通価値観として、共有出来ればと切に思います。我々は、自らの退路を絶って真摯に仕事をする、本物の『プロ意識』を十分認識している集団として、堂々と歴史を歩いて行くではありませんか！。歴史の向うに必ず日本中どこにも無い、オリジナル溢る同窓会が出来ると信じています。

退任挨拶

福岡大学在任中の思い出

福岡大学病院腎センター教授 内藤 説也



私は昭和48年4月（1973年）から平成13年3月（2001年）まで28年間福岡大学に在席した。私は医師となってから九州大学医学部第一内科に5年間（一年間の地方病院への出張、東京医科歯科大学への22ヵ月の留学を含む）、循環器内科に9年間（UCLAへの2年間の留学を含む）在任しただけなので、福大の28年間は圧倒的に長い。

実は私の実父（当時在東京）の希望を聞いた九大の前のボスが東京のさる病院を紹介してくれていたのであるが、九大でいろいろお世話になっていた荒川規久男福岡大学名誉教授（前内科学第二講座主任教授）から、福大に来て加勢してくれと頼まれたのでしばらく福大で主に臨床を勉強しようと考えてお世話になることになった次第である。このしばらくが実に28年の長きに渡ってしまったのだから人生はわからない。しかも思いも掛けない教授にまでして頂いたのだからまさに福大さまである。

まず最初に浮かんでくるのは、昭和48年8月、香椎の九電病院から七隈への移転である。急性心筋梗塞発症数日後の患者を救急車に乗せて、心電図と血圧計を抱えて乗り込み、何も起らないことを念じていたことが思い起される。福大での最初の職種は福岡大学助教授で病院とも医学部ともなっていないところが、特異的であった。助教授ではあるが、最初は6階東病棟主任をやった。したがってCCUも管理していたが、心筋梗塞はしばらくは土居寿孝氏（前済生会福岡病院副院長）の叔父様を宮崎から自衛隊のヘリコプターで運んできた一例のみで、他は脳血管障害、悪性高血圧などが殆どで、今でも印象に残っている珍しい症例は原発性アルドステロン症で低カルウム血症のため、不整脈を生じた患者である。

49年半ば頃からは、病棟は離れ、HLAの研究室を頂いた。また広木教授もみえたので、荒川教授からお前はHLAの関係もあり循環器より腎臓をやったらいいだろうと云われ、腎臓の専攻を始めた次第である。血液透析は血行動態の管理が主体で循環器の様なものであるが、腎生検病理などは腎生検カンファレンスを通じて、竹林教授と長崎大学へ行かれた田口教授に学んだことを基礎にして自己勉強をしたに過ぎない。しかし教えることは学ぶことといわれる様に、また、いろいろな腎臓関係の学会に出たりしている内に臨床腎臓学の大家に成った様な気がしてきたのだから、人生は面白いものである。

臨床は無症候性尿異常患者の診断と管理、ネフローゼ症候群の診療、慢性腎不全の透析前での診療、透析導入、血液及び腹膜透析療法、腎移植を受ける患者と供給者の選択などの仕事をやってきた。週二回主として午前中の外来診療、週一回午後の病棟回診、週一回約90分の腎センターで治療を行っている患者の評価のための会議がルーチンの業務であった。亡くなられた方については剖検を行うことに全力を尽くし50%以上の剖検は得られたと思われる。毎週火曜日の17時30分から19時30分位まで主として臨床、または臨床の研究についてのセミナーを行い、知識を交換した。研究のセミナーも週一回約一時間テキストの輪読と研究資料の分析、研究内容の報告などを行ってきた。腎臓病や膠原病などとHLA型との関連では多くの結果を出し、Nephron, Kidney International、日本腎臓学会誌などの一流誌に報告してきた。また九州・沖縄ブロックのHLAタイプセンターとして移植を希望する人のHLA型判定、ドナーが出た場合のHLAタイプ、HLA適合度と移植成績との関連などをプロスペクティブに追跡している。これらの仕事は兼岡助教授や小河原講師が更に続けていくと思われる。最後にこのような楽しい思い出を残して頂いた福岡大学に感謝しつつ筆を置く。

報 告

M6 国試 激励会

学生担当理事 井 上 隆 則 (7回生)

(のぞみメンタルクリニック院長)



私が、国家試験対策という言葉をもっと身近に感じたのは、昭和58年の4月、ちょうどM6になった時でした。当時は、まだSGT(月～金)が7月まであって、土曜日に講義があったと思います。そして初めての国試用の模擬試験を受けて、自分の学力のなさを

痛感したものでした。ただ、周囲の同級生も含めて、それほど焦ったり、落ち込んでいませんでした。「普通に勉強して行けば何とか合格出来る」とみんな思っていたからです。

むしろ私達が危機感を持っていたのは自分自身の事ではなくて、全体の合格率の事でした。

つまり、このまま合格率が低迷していたら、福大医学部の評価が落ちて、それが入学試験の合格者の気持ちに微妙に影響する事でした。結局どれ位のパーセントだったのか、よく覚えていませんが、私自身がすべてしまい格好の悪い対策委員長となったのです。その後、半年の浪人のあと同級生達に少し遅れて合格したのですが、あれから約16年近く経った今でも、時々国試を受けている悪夢を見る事があります。

さて、烏帽子会も創立20年になり、同窓生の総数も2,500人となり、会費収入の効率化も進み始め、随分色々な事業が実現してきました。私は、以前から組織が強大になる為には、多くの人の関心とお金が欠かせないものと主張してきたのですが、同窓会の意義を卒業したあとで正会員に認知して貰うのは至難のことです。従って、多くの人が集まる事の出来る学生の時にこそ、烏帽子会の存在意義を理解しておく事が、卒業後の愛校心につながるものと思います。そして、私達先輩が、学生の為に出来る事で最大の事は何かと言えば、医学生としての目標である医師国家試験に対する支援が最も適当な事でしょう。

幸いにして、烏帽子会の役員も相応に年輪を深めてきており、そして一回生の新教授が学生の国試対策担当になったこともあり、今から本格的に国家試験に対する支援を烏帽子会の事業としてやって行こうという気運になりました。実際、学生達は年々難しくなっていく国試に対して、私達の

頃とは比べようもない程の不安を持って戦っていました。確かに、立ち上がったのが少し遅かったのですが、とにかく彼らを勇気付けようという事で、平成12年10月28日、天神の中華料理店で国試激励会を行いました。

当時のM6(111人)全員に呼びかけて、集まって貰うようにしました。始めのうちは、激励会の意義がうまく伝わらず、多くの学生が「ただの飲み会」「先輩の説教会」などと誤解が生じていましたが、高木会長が自ら率先して、そういう学生達全員に電話をかけて説得したところ、さすがに学生達も前向きに関心を持ち、結果的には一部のどうしても来られない理由があった者を除いた、87人が参加しました。その学生達に対して、烏帽子会を代表して私達役員と福岡支部会員が中心となって、彼らの話を聞き、彼らに激励の言葉を送りました。私は壇上から司会進行役をしていましたが、先輩達の激励の言葉を聞き入る彼らの真剣な眼差しは本物だったと思います。

この日は、そうして親子ほど年の離れた世代が、丸い円卓を一緒に囲んで盛会のうちに終わりました。その後の反省会でも、かなり意義のある会だったという感想をたくさん頂きました。もちろん、これだけで終わっていたら「ただの宴会」ですから、この時に学生達が話してくれた事、そして私達が感じた事、そしてこの日の雰囲気や医学部の方にしっかりと伝えることが必要です。そうして、医学部(教える方)と学生(教えられる方)と烏帽子会(支援する方)の三者が一丸となってこそ、国試の合格率のアップが望まれるものでしょう。

現在、第95回の医師国家試験は終了していて、この会報が出る頃には、その合格率も出ている事でしょう。私達は、すでに来年、再来年に向けて、この事業の拡大を企画中です。具体的には、1年生の時から接触を持ち、4年生の時に発破を掛け、5年生の時から模擬試験を受けて、気持ちを国試に向けて集中させて行く事です。

95回の国家試験が終了した日、受験生の労をねぎらうため医学部の学生食堂で慰労会を催しました。受験生60名をはじめ教職員や同窓会員を併せて約110名の人々が集まりました。折りしもその席で高木会長が言った事、「三年後には合格率日本一を目指す。」は、私達烏帽子会員と学生達の合言葉になると考えています。

教室紹介

衛生学教室

衛生学教室併任講師 百瀬義人

福岡大学医学部衛生学教室は、初代教授として江崎廣次先生（名誉教授）が就任され、昭和49年4月に開講した。江崎教授の研究分野は人口問題、農村医学、地域保健、産業保健と幅広く、中でも、特に農村医学の研究に情熱を傾けて来られた。江崎教授が退任後は、畝博教授を中心として教育・研究活動に励んでいる。

1. 現在のスタッフ

畝博（教授）、宮崎元伸（助教授）、百瀬義人（併任講師）、岩橋満愛（助手）、瓜生洋子（教育技術職員）の5名。

2. 主な教育内容

M3の講義では、疫学入門、産業保健概論（畝）、地域保健（宮崎）、健康教育、学校保健概論（百瀬）の他、医療保障と医の倫理を非常勤講師が担当している。M4の講義では、産業保健、成人・老人保健（畝）、感染症の疫学、国際保健、公衆衛生法規（宮崎）、人口保健統計（百瀬）の他、公衆衛生行政と環境保健を非常勤講師が担当している。この他、学外施設見学実習を行う。保健所実習、テーマ実習の2本立てとし、講義では得られない地域保健の実践について見識を深めている。

3. 研究と業績

社会医学の視点から、疾病予防に関する研究を中心にこなしている。疫学的手法が主であり、各プロジェクトが並行している。以下に最近の当教室における主要な業績を示す。

1) 市町村における基本健康診査の健診方式と健診受診率、死亡率および医療費との関係 厚生指標 46(10):18-21,1999.

2) 福岡県における主要死因死亡の地域差、1988～1996年 第1報 全死因死亡と全がん死亡 福大医紀 26(3):151-162, 1999.

3) 福岡県における主要死因死亡の地域差、1988

～1996年 第2報 心疾患死亡および高血圧性疾患死亡 福大医紀 26(4):213-225, 1999.

4) A massive outbreak of *Escherichia coli* O157: H7 infection in school children of Sakai City, Japan. Associated with consumption of white radish sprouts. *Am J Epidemiol* 150:787-796, 1999.

5) 非肥満学生の血清レプチンレベル：体脂肪、血圧、血清脂質、身体活動および食習慣との関連 日本衛生学雑誌 54(2):474-480, 1999.

6) 健康長寿に関する要因についての Prospective study. *健康医科学* 15:9-15, 2000.

7) *Helicobacter pylori* infection: Relationship between seroprevalence and dietary preference in a rural area. *Acta Med Okayama* 54:47-52, 2000.

8) 中高年における直接法による low density lipoprotein cholesterol と生活習慣との関連 日本農村医学会誌 48(5):695-709, 2000.

感染性廃棄物を取り巻く諸問題 医療機関としての排出者責任と委託相手に関する情報と評価 日本公衆衛生学雑誌 48(2): 73-75, 2001.



「次世代への架け橋となるために」

大村市立病院心臓血管病センター長 今 田 達 也（2回生）



長い間同窓会総会に出席できず申し訳ありません。年2回郵送されてくる同窓会報を懐かしく、嬉しい知らせや時には悲しい知らせに一喜一憂しながら拝読しております。昨年末、久しぶりに福大を訪れ外来駐車

場そばの樹木の成長ぶりに驚き、改めて年月の経つ早さを痛感しました。さて私は平成3年9月に心臓血管外科教室を離れ、現在は長崎県の大村市立病院で心臓血管外科医として勤務しております。

もともと大村の出身であったことより縁あって勤務することとなったのですが、当病院は全科が長崎大学の関連施設であり諸手を上げての歓迎にはほど遠いものでした。しかし、循環器科医師たちの後押しと一部の人々の励ましにより、頑張れば必ず多くの人が理解してくれるにちがいないと勇気づけられ、福大心臓外科教室の協力により心臓外科手術を始めることとなったのです。はじめは週に一度程度の心臓外科手術で細々としておりましたが、はじめて数ヶ月経った頃、ある看護婦さんから『先生、そんなに頑張っても一緒ですよ』と言われ、私ははじめどういうことか理解できなかったのですが、要するに頑張っても頑張らなくても給料は変わらないと言うことで、自分たちが忙しくなることが苦痛であったのでしょう。まさに公務員的であり、公的病院での勤務経験のない私にとって改めて公的病院での仕事の困難さに直面したのです。思い起こせば私が大村市立病院に勤務することが決まった頃、先代の浅尾教授が『公立病院ではあまり仕事しすぎると仕事しない医者から嫌がられることがあるよ。』と言われたことをふと思い出しました。とはいっても、周りに評価されるには患者さんのために一生懸命やって実績を残すほか無く、福大心臓外科教室の後輩たちの協力によりスタートいたしました。

当初は昼夜を問わず鳴り響くポケットベルの音に悩まされ、ポケットベルの電池の寿命も一ヶ月とはならず、ましては家族で出かけることなどな

い日々が続きました。結果徐々に症例も増え始め、平成7年6月には公的病院で県内初の心臓血管病センターが併設され、心臓血管病の高度医療機関となったのです。その後歳月を重ね、はじめは院内循環器内科からの紹介患者さんだけであったのが徐々に他の病院からの紹介患者も増え、今では県内はもとより県外からも当センターを訪れるようになりました。また元々素直で素朴な性格であった周りのスタッフたちも今では誇りを持って仕事をこなし、いかなる時間の緊急手術でもいやな顔ひとつせず、救急患者が院内到着後30分以内で手術室が使用できるシステムは誇れることと思っております。たとえ心臓マッサージをしながらでも手術まで到達できることが特別な状況でなくなったことは大きな進歩だといえます。まさに個人一人一人の意識改革がなされこのように変わったことに驚かされました。現在、年間260例余りの心臓血管外科手術、特に140、150症例の開心術は私を含め4人の医師では精神的、肉体的疲労もありますが心の充実感は十分感じております。私が常々大学にこだわらず他大学による混成の心臓血管外科チームが理想と考え、今では長崎大学出身の常勤医、久留米大学そして鹿児島大学からのローテーターたちに囲まれ、まさしく多国籍軍の状態で私もいろいろ教えられることが数多く非常に満足しております。それぞれの大学が当病院を関連病院とし大学間の交流も盛んになり、不都合な面は全くありません。時より他科で福大出身の医師が当病院にローテーションとして勤務してこられ、何となく親近感を覚えると共に多くの後輩ができたことも実感するのです。まだまだ発展途上の心臓血管病センターでどこまで頑張れるかわかりませんが、次の世代への架け橋となるため頑張っていきたいと思っております。

近況報告になりましたが田舎で細々と頑張っている一心臓血管外科医からでした。

大村市立病院心臓血管病センター

HP; <http://www.fsinet.or.jp/~ocvc>

e-mail; ocvc@fsinet.or.jp

福岡大学医学部同窓会支部便り

北九州支部総会並びに ゴルフ大会

北九州支部長 坂本 博士（2回生）
（坂本眼科医院院長）

◆第23回北九州支部総会

去る平成12年6月16日先日福岡大学副学長にご就任されました菊池先生、同窓会会長高木先生をお招きし、また福岡県医師会会長関原敬次郎先生に衆議院選挙前の御多忙にもかかわらず特別記念講演を御快諾頂き第23回支部総会を開催しました。初めに菊池先生の福岡大学副学長のご就任に対して支部一同心よりお祝い申し上げ後、本年度の目標につき述べました。第一点は前年度よりの懸案である支部会費及び同窓会会費の一括徴収の件；役員および事務局の努力で会費自動引き落としの烏帽子会カードを会員の約70%は作成できましたが、本年度内に目標の100%に到達しようと皆様の協力を再確認しました。第二点は北九州支部の発展の方向性です。同窓会は支部会員同士の親睦と友情の会です。日常業務、スタッフとの間でも、また医師会でもなかなか医者としての本音を日常言えないものです。医者としての本音や個人的なこと、支部活動に対する自由なご提案や苦言など、言いたいこと言い、真剣かつ闊達な意見を交わせる明るい気楽な会に発展させることが目標であり、総会に参加して良かった、また来たいなあと思うような支部活動になるよう皆様とともに努力していく所存です。また前年度より始まった総会には来れなかったがゴルフには来た、でもいいじゃないでしょうかということで第2回北九州支部ゴルフ大会を開催する旨を報告し

ました。第三点はこれも前年度よりの懸案の女性会員の出席につき、本年度は3名の参加が得られましたが、支部活動への女性の参加もしやすいよう引き続き配慮いたします。第四点は支部地区の本校医学部在校生との接点のあり方にも検討を加えることになりました。最後に、地域社会の信頼を得るには医療情勢がいかに変わろうとも医の倫理規定に基づいた医療行為を心がけることが重要であるという関原県医師会会長の講演を拝聴した後、恒例の懇親会となりました。

◆第2回北九州支部ゴルフ大会

担当 中岡幸一先生、優勝者 古賀哲二先生

1999年度より北九州支部同窓会では年3回の学術講演の他に6月の支部総会の次の日曜日に、皆様とスポーツでもしてなにか楽しい一時をもとうではないかとのことで始めたゴルフ大会は、今年で2回目になります。幹事は中岡幸一先生で北九州カントリークラブで行いました。参加者は11名、優勝者は古賀哲二先生でした。

6月16日は北九州支部総会、17日は朔敬二郎先生の教授就任祝賀会、そして18日はゴルフ大会と三日連続合っ顔ぶれで、二日酔い、三日酔いの先生方が多い中、開催しました。梅雨の時期にもかかわらず、天候にも恵まれ浅野正也先生、田原敬士先生、松原好宏先生の3名がグロス70台を出しました（レベルが高い！）。一打一打に日ごろのストレスをぶっつけ、好プレー珍プレー続出する中、和気あいあい楽しい1日を過ごしました。プレー後の表彰式でも楽しい歓談の時が持て、次回は自分が優勝するぞ！とそれぞれ心に秘めながら散会しました。総会、臨床研究会、役員会な

どで夜しか会うことの無いみんなが、ゴルフの時にははつらつした顔になりうれしく思います。こ

うしてゴルフをしていられることに感謝しつつ、みんなが元気な顔を見せてもらえるように多くの



会員の参加を期待しています。次回第3回支部ゴルフ大会は山口県川棚ゴルフ場で開催の予定です。

参加者（敬称略）：中岡幸一、古賀哲二、重田正義、坂本博士、中山管一郎、蛙崎隆男、浅野正也、田原敬士、上野清司、松原好宏、浅海透

佐世保支部会開催

佐世保支部長 山 川 裕（4回生）

先日2月24日佐世保支部会が行われました。今回は世話役の人事が変わってはじめての支部会であり少し緊張いたしました。他の先生方のご協力をいただき和やかな雰囲気で行われたと思います。

今回は特別に検討すべき議案はありませんでしたが、貧乏な地方支部であるため、非常用の予算もなく、さっそくながら会費の値上げを会員の方々にお願いし、会員の皆様にも快く承諾していただきました。また、新会員の紹介、顔合わせ、雑談という形になりましたが、介護保険を含む現在の医療の中で皆さんから教えていただくことも多く、また同窓の先生方とあって心安く教を請うこともできそのありがたさが良くわかりました。しかしながら皆さん専門家とはいえ良く勉強しているな～と感心するばかりです。

今回の反省、各会員の都合の良い時間がとり難

いため（支部会という形をとらなくても、少人数でも）もっと気楽にあって話ができる状態が作れればよいのですが、どこかに同窓会の溜まり場的空間を作れないか、もっと、綿密に連絡を取る方法はないだろうか（電話では用事がないとかけられないし、電子メールでも出してみるか）などど考えつつ、今回の支部会を終わりました。

現状ではまだまだたいしたことはできませんが会員の皆さんと遠慮のない自由に話ができる支部会を運営していければと思っています。



ムツゴロウに乾杯！

縄 田 秀 幸 (M5：前西医体委員長)



昨年の7月20日に何気なくつけたテレビで「ムツゴロウと愉快な仲間たち」が放映されていた。番組は終盤の終盤で全体の構成はほとんどわからなかったが、ちょうどムツゴロウさん

がペットとして飼われているライオンのオリに入っていくところであった。次の瞬間「アッ」という声があがり、カメラがぶれムツゴロウさんが倒れ込んだ。じゃれつこうとしたライオンがムツゴロウさんの右手の中指をくいちぎったのだ。画面はそこで切りかわり、救急車に運ばれる彼の姿がチラッと映り、次いで治療を終えてライオンのオリに戻ってきているムツゴロウさんのアップになった。

ムツゴロウさんの指には包帯がぐるぐる巻きにされていた。作家の命ともいえる利きウデの中指が途中からちぎられてしまい、どんな顔をしてテレビにでてくるのかと思っていたら彼は満面の笑みであった。

よほどライオンに指を喰われたことが嬉しかったらしく、小さな顔がクシャクシャになってその喜びを現していた。「丸ごとたべられてもいいですねえ」人なつっこいあの笑顔で彼が感動しているのが伝わってきた。それはウラモオモテもない素のムツゴロウの感情だった。

指を喰われて喜んでいるムツゴロウさんがいる。僕はテレビの前で一人爆笑した。そして爽々しい気持ちになった。彼の今の興奮は納得できたし、共感できた。

人間にはふしぎな力がある。どんな不幸にみまわれても、少し心のチャンネルを入れかえればチャンスにもなるし喜びにもなる。人はそれを前向き志向とかいうのだらうけど、しかしまあムツゴロウさんの場合はよくぞここまでつきぬけたものだ。

突拍子もないことが起こった驚きと、これからおこる未知なる困難への期待で彼は興奮し、ホホが上気し鼻息が荒くなっているのだ。

僕はうれしかった。嬉しくて嬉しくて、あんまり嬉しかったので次の日友人にこの話をしたら、「変人ね」と言われたがやっぱり嬉しかった。

僕達は医学部にいます。勉強もいっぱいしなくちゃいかんし、教授たちにもいっぱい怒られるでしょう。留年したり退学したり、国試におちたり、いろいろなアクシデントもあるでしょう。しかしどっこい、そんなものが一体何だというのです。心のチャンネルを入れかえるちょっとしたテクニックと一握りの情熱をもっていれば、僕達はいつだって幸せになれるはず。

困難を喜ぼう。 苦しみを楽しもう。

人生に興奮しよう。

そして ムツゴロウに乾杯！



部活の大切さ

土 倉 潤一郎 (M5: 前医学祭委員長)



主題を見て、「福大の医師国家試験の合格率が低迷し、学生の勉学に対する姿勢を見直そうと、さまざまな対策、激励が飛び交っている今の時期に、まだ判っていない者がいるのか」と

憤慨される方も多いと思います。私は逆にこの低迷時期だからこそ「部活の大切さ」を強調したいのです。

医学部というのは殆ど医師になるための専門学校のようなもので、医学部で学ぶ医学の一つ一つが将来そのまま自分の力に反映され、患者さんの診断、治療へと導かれる。いま学んでいる医学は医師になるための手段であると同時に、将来医師となった時の基礎知識となる。よって少し誇張して言えば、すでに医学部に入った私達は今学んでいる一つ一つが患者の命に関わっているのだという責任感、そしてこの知識が自身の生業を支えるのだというプロ意識を持って勉強に励むべきだと思う。単に試験に受かるためや親、先生に言われるから医学を勉強するのではなく、患者さんのため自分のためという意識の上に立って学ぶのである。

しかし、私はこの学生の時期に学ぶことはただ医学だけではいけないと思う。医師は患者さんのために人の痛みの解る人間であれといい、また現在の医療は医師、看護婦、コメディカルを含めたチーム医療であり人の和が必須であるともいう。そのためには人間性や見識、自分の身の処し方、人とのつき合い方などこの時期に学ぶものは多いと思う。

私は幸いにも一年の時から部活に所属し、すば

らしい部の環境の中で育てられた。充実した部活動が出来たし、そこでさまざまなことを感じ身につけていった。入部した理由は単純なものであったが、部活の日々が過ぎていく内に部活には多くの大事な要素が含まれている事を知った。それは医師になる上に必要な、医学と同等もしくはそれを超える貴重な価値のあるものだった。

部活というとスポーツの印象が強いが、そこはそのスポーツを中心にして集まった友達や、先輩、後輩で構成される小さな縦社会である。そこには言葉では言い尽くせないほど大事で複雑な要素が含まれている。

まずその一つは単純に部活を通じて交流する人間が増えるということである。そしてその交流の広がりには部員やその知人を通じて、思いやりや協調性、仲間意識、先輩、後輩に対しての付き合い方、初対面の人とのコミュニケーションなど数えきれないほどの体験の場を用意してくれる。

次に部活によって勉強の時間が減るという点がある。勉強の時間が削られることでやりくりを余儀なくされる。しかしそこで時間の貴重さとその使い方を学ぶ。例えば数週間後に試験があるとする。当然部活もあるのでそれを考慮した計画を立てる。勿論あまり時間が無い。そこで授業と部活の間、部活と就寝の間など短い時間を最大限に利用することになる。このようにして、計画性、実行力、持続力、集中力が必然と身につくのである。部活の時間を勉強の時間に置き換えれば何倍もの知識を得ることが出来ると言うかもしれないが、時間があればあったでその時間すべてに集中度を持続出来るというものでもない。仮にそこでなにがしかの得るものがあったとしても、その時間、部活で得ることが出来た貴重なものと較べれば、私は間違いなく部活を選択する。

またこの学生の時期に時間の貴重さを体験することもとても大切な事だと思う。この学生時代の数年間が自分の一生にどれだけ大きな意味を持つ

か、そう思えば今まで何もしないで怠惰に過ごしてしまった時間が悔やまれ、今にして一瞬たりとも時間をおろそかに出来ないと思う。時間を有意義に過ごせばそれは蓄積されて大きな利子となって返って来るし、反面何もしないでいると、たとえばそれが30分、1時間の些細な時間であってもやはり数年後には相当の損失になって返ってくる。いま何をなすべきか、熟慮して生涯に悔いを残さないようにしたいものである。

最後に部活というものを通じて団体行動について感じる点がある。まず、団体の中では自分のやりたいことより全体の流れを優先するのが基本だ。しかし、人間というのは自然に自分に都合のいい方に流れがちなので、常に周りの状況を意識して自分の行動を律する必要がある。また、団体意識を高めるためには部員個々の意識を束ねる必要があり、そんな時には個人の意思を押さねばならぬ事もある。部員全員が個の欲求を抑えることによって団体の大きな喜びが生まれ、個で失ったもの以上の物を全員で手にすることが出来る。その一体感は団体でしか味わえない最大の醍醐味だと思う。私はその一体感から得られる筆舌に尽くしがたい快感を味わうために部活に所属し、周りの人のために行動するのだと言っても過言ではない。ただし、その一体感は各個人が部活にただ所属しているという安易な気持ちでは決して生まれない。全員が全力で部活に励み、よく考え、行動しなければ本当の楽しみは得られない。

部活で培われたこの心の在り方は、医師を含めたあらゆる場で多くの事に役立つものと思う。例えば、勉学においても「自分さえよければ」というちっぽけな考えより、皆で励まし

合い足りないところを補い合い、結局はそれが自分にとっても良い結果をもたらす事になるのではないだろうか。また、医療の現場でも医師、医療スタッフ、患者間のコミュニケーション不足が原因で、医療過誤など多くの問題が発生していると聞く。現場のコミュニケーションが人間関係で成り立つ以上、部活で身についたコミュニケーションが必ず医療の現場でも役に立つ事と思う。学生の時に誰とでもそつなくコミュニケーションの出来る人、人間関係の円滑な人は医師になっても都合だと思う。

学生はそれぞれ勉強以外の時と場所を持っていると思う。私はたまたま部活に所属していたのでこの場を勉強以外の場とした。おそらくみんな医学生として勉強し、部活に励み、趣味を生かし、バランスの良い人間に育つよう努力していると思う。しかし、今の福大の医師国家試験の合格率の現状からすると、我々は今以上に勉学に励む必要があるし大学もそれを要求するであろう。しかし、繰り返したように勉学一本の偏狭な医師でなく、バランスのとれた心豊かな医師になる事を忘れてはならない。今はまさに、多角的に医師、社会人の基盤を作る大事な時期だと思う。



故 小野 庸名誉教授追悼文

放射線医学教室非常勤講師 小金丸 史隆（3回生）
（こがねまるクリニック院長）



在りし日の姿を偲んで、故小野庸教授のご逝去に哀悼の意を申し上げます。「先生！お久しぶりです。お懐かしゅう御座います。とうとうこうして丸が先生の追悼文を書きます！どうぞ、怒らないで下さいね。」先生は福岡大学医学部、病院の開設

以来、定年までの長い間、放射線科の発展に寄与されました。博識で且つ医学の道に造詣が深かったのも、九州帝国大学医学部病理学教室の故小野名誉教授の次男として、幼少期より医学に接する機会が多かったからと伺っています。私が学生の頃、先生は医学部三大変人教授の一人として恐れられていました。岩窟で元軍医大尉の先生には「情」という言葉は似合わなかったのでしょうか。先生、お忘れかも知れませんが、私が医学部五年生の時、放射線科の講義で遅刻して臨床大講堂へ入るやいなや「こら！貴様の名前と学籍番号を述べろ！後で学部長に報告しておく。」と一喝。私は、こんな教授の教室なんか絶対入局するものかと、その時堅く決心しました。それに関わらず、X線フィルムが好きだった私は結局のところ先生の門下生になったのです。しかしながら、あれだけ変人で鬼の様に怒り出すと思っていた先生は、実はなかなか話し好きでグルメ通の我々の世代、またもっと若い医局員たちとも話題に事欠かない、なんとも面白い教授でありました。在職中より書きしたためておられた三冊のエッセイ集、「放射線の窓から」「X線の影と光と」「γ線のささやき」はいま再び読むにつれ、そのお人柄が思い起こされます。また先生は元軍医であったため戦後公職から辞任され、ご苦労も多かったことかと思ひます。その後、三井三池鉱業所病院、山口大学病院、久留米大学病院で塵肺の研究に打ち込まれ、福岡大学教

授に就任後には、労働大臣賞の栄誉を授けられました。福岡大学医学部教授就任後は、腫瘍の放射線治療に関しての研究を深められ、入江賞をはじめ多くの賞を頂かれました。そのすばらしい業績を得られるまでには辛いご経験もありましたね。それは、在職中に愛娘、湊子様をご病気で亡くされたことです。福岡大学病院一同の献身的な治療と看護にも及ばず、お慰めの言葉も無くすほど、私達医局員も悲しみに涙しました。エッセイ集「γ線のささやき」より湊子様のお話を引用させていただきます。「湊子はプロ野球が好きだった。それも地元の西鉄ライオンズファンで、何度か一緒に球場へも行った。その湊子が余りにも若くして逝ってからもう10年になる。そして夢の中に帰ってきた。結婚前のように豊かな頬をして里帰りしてきた。平和台球場のキップが手に入ったが開場までの時間が余りないから、（先に行って待ってて！）と言うと、天気が良くなかったのか、湊子はレインコートを着て（じゃねー、いい席取って待ってるからね！）と先に出て行った。彼女はあの世で自分の横に、私の席を取っておいて呉れているのだろう。今、先生は湊子様と大好きだったシャブリの白ワインで大好物の酢豚定食を食べながら存分に語り尽くされていることでしょうか。いつものように、ユーモアとペーススを交え、そして愉快地笑いながら。先生の厳しい面構えの背後には、実はいつも優しい顔があったことを丸はずっと忘れません。先生の叱咤激励により、福岡大学医学部放射線科医学教室も現岡崎教授に受け継がれ、日々に日本医学放射線学会のなかでも有数なる教室へ発展し、また、こうして私も少しは人の気持ちが理解でき、何かしら人の役に立てる町医者になって来られたことに深く感謝いたします。小野先生、ありがとうございます！先生の厳しさは優しさでもあったのです。小野先生との思い出の数々は私達同門の心の中に永久に生き続けることでしょうか。先生！安らかに眠り下さい。（尚、会報の都合上掲載が遅れた事をお詫びいたします）

江口 靖君を悼む

ワンダーフォーゲル愛好会 松 添 大 助 (11回生)



私が江口君と初めて会ったのは、たしか神松寺の焼鳥屋でした。改築する前の『ぼけ八』だったと思います。私が四年生、彼が一年生ではなかったでしょうか。お互いにグループで呑みに来ていて、たまたまカウンターで隣り合わせたのです。私はワンダーフォーゲル愛好会に所属していましたが、彼は無所属でした。私が山に登っていると知って、彼は昔見たサスペンスドラマの話を始めました。『八ヶ岳遭難事件。事故か故意か？大学教授と助教授の確執。教授夫人は助教授の愛人だった！』彼の巧みな話術に私は大笑いし、居合わせたお互いの仲間を無視して、私たちは夜更けまで話し込みました。

後日、改めて江口君をクラブの集まりに迎え、ワンゲルの新メンバーが誕生しました。それからは共に山に登り、何度同じ釜の飯を食ったことでしょうか。私たちは体型がそっくりだったこともあって、周りからは兄弟のようだと冷やかされました。彼と過ごす時間が長くなるにつれて、私は彼がとても繊細であることも知りました。そして人懐こい彼の笑

顔を見るたびに、私は何かしらチョコカイを出したくなったものです。山の上で食料の奪い合いに興じてみたり、先輩風を吹かせて彼を困らせてみたり。

一年間の登山の無事を感謝して毎年十二月に「宝満山」に登る納山会でのことです。大きな鍋に約二十人分の豚汁を作ります。学生の乏しい小遣いで作った豚汁です。小雪の舞う中、少ない具を探して全員が鍋底をさらいます。ついに江口君が里芋を見つけました。フォークに刺さった里芋を、よせばいいのに勝ち誇ったように私に見せつけます。私はいつもの悪戯心ですかさず奪い取ると口の中に放り込みました。彼のあっけにとられた顔と、そのあとに続く悔しそうな表情が忘れられません。その後、この事件は宴会のたびに彼の巧みな話術で再現され、そのつど大爆笑で盛り上がったものでした。

残念なことに、とても残念なことに、江口君の時は止まってしまいました。私たちはもう彼と山に登り、語り合い、学び合うことができません。しかし、彼が残した思い出はいつまでもわれわれワンダーフォーゲル部全員の心の中に生き続けます。

山を想うとき、そこには君がいます。仲間で集まるとき、そこには君がいます。これまでと同じように、そしてこれからもずっと、君は僕たちの仲間です。

計 報

後 藤 英 文 先生 (11回生)

平成13年2月25日逝去されました。

(連絡先) 847-0011 佐賀県唐津市栄町2570-9

電話 0955-72-4608

福岡大学医学部同窓会資料集

教育職員人事（講師以上）

〔○内の数字は福大医学部卒業回
平成12.10.2～13.4.1〕

区 分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退 職	腎 セ ン タ ー	教 授	内 藤 説 也	13. 3.31	選択定年
	内 科 学 第 二	助 教 授	佐 々 木 淳	13. 3.31	一身上の都合
	外 科 第 二	講 師	白 石 武 史	13. 3.31	一身上の都合
	救命救急センター	講 師	半 田 耕 一	13. 3.31	南大牟田病院
	消 化 器 科	講 師	瀬 尾 充	13. 3.31	一身上の都合
	外 科 第 一	講 師	嘉 数 徹	13. 3.31	東京大学外科
昇 格	内 科 学 第 二	教 授	出 石 宗 仁	13. 4. 1	教育計画部教授
	病 理 学 第 二	助 教 授	孟 晶	13. 4. 1	
	内 科 学 第 一	助 教 授	鈴 宮 淳 司	13. 4. 1	
	血液・糖尿病科	講 師	安 西 慶 三	13. 4. 1	
	歯科口腔外科	講 師	豊 福 明	13. 4. 1	
	外 科 第 二	講 師	岡 林 寛	13. 4. 1	
	筑紫脳神経外科	講 師	風 川 清	13. 4. 1	

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大卒業回、筑紫病院の＊印は内科・消化器科の代表)

平成13年4月1日現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
〔 福 大 病 院 〕			
血 液 ・ 糖 尿 病 科	一 瀬 一 郎	市 川 晃 治 郎	鈴 宮 淳 司
循 環 器 科	松 永 彰 ③	山之内 良 雄	辻 惠 美 子
消 化 器 科	青 柳 邦 彦	山 本 智 文	辻 博
腎 臓 内 科	兼 岡 秀 俊	武 田 誠 司 ⑪	野 田 律 矢
呼 吸 器 科	渡 辺 憲 太 朗	石 橋 正 義	豊 島 秀 夫 ⑧
神 経 内 科 ・ 健 康 管 理 科	宗 清 正 紀	中 島 雅 士 (6北)	藤 野 泰 祐 ⑭(神経)
〃		稲 田 博 道 ⑬(7階)	松 永 洋 一 ⑤(健管)
精 神 神 経 科	福 井 敏	高 尾 岳 久 ⑫	鈴 木 智 美 ⑩
〃 (テ・イア)			入 澤 誠 ⑭
小 児 科	小 川 厚 ⑥	安 元 佐 和 ⑦	松 本 一 郎 ⑩
外 科 第 一	田 中 伸 之 介 ⑤	中 村 浩 ⑪	永 井 哲 ⑫
外 科 第 二	岩 崎 昭 憲	前 川 隆 文 ②	米 田 敏
整 形 外 科	生 野 英 祐	張 敬 範 ⑫	緑 川 孝 二 ⑥
形 成 外 科	棚 橋 慎 治 ⑫	棚 橋 慎 治	江 良 幸 三
脳 神 経 外 科	平 川 勝 之 ⑨	大 野 哲 二 ⑭	継 仁 ⑧
心 臓 血 管 外 科	立 川 裕 ⑬	芝 野 竜 一 ⑭	岩 橋 英 彦 ⑰
皮 膚 科	久 保 田 由 美 子	清 水 昭 彦	川 内 麻 美 子
泌 尿 器 科	田 原 春 夫 ⑤	田 丸 俊 三 ⑨	中 島 雄 一 ⑫
産 婦 人 科	井 上 善 仁	牧 野 康 男 ⑧(3東)	澄 井 敬 成
〃		江 口 冬 樹 ⑥(3北)	澄 井 敬 成
眼 科	松 井 孝 明 ⑪	尾 崎 弘 明	野 下 純 世
耳 鼻 咽 喉 科	原 田 博 文	周 防 屋 裕 司 ⑮	今 村 純 秀 ⑪
放 射 線 科	秋 田 雄 三	中 島 力 哉 ⑭	藤 光 律 子 ⑧
麻 酔 科	櫻 木 忠 和 ③	平 田 和 彦 ⑫	平 田 和 彦 ⑫
歯 科 口 腔 外 科	豊 福 明	山 口 利 浩	豊 福 明
病 理 部	大 慈 弥 悠 子		
臨 床 検 査 部	野 元 淳 子 ⑨		
輸 血 部	伊 藤 晃 ⑪		
救 命 救 急 セ ン タ ー	谷 川 攻 一	益 崎 隆 雄	
〔 筑 紫 病 院 〕			
筑 紫 病 院 総 医 局 長	新 居 見 和 彦 ⑤		
内 科 第 一	三 好 惠 ⑮	三 原 宏 之 ⑨	諸 江 一 男 ③
内 科 第 二	二 宮 寛 ②	有 富 貴 道	有 富 貴 道
消 化 器 科 ・ 内 視 鏡 部	*八 尾 建 史 ⑧	*戸 原 惠 二 ⑧	*津 田 純 郎 ⑥
小 児 科	新 居 見 和 彦 ⑤	新 居 見 和 彦 ⑤	津 留 徳
外 科	河 原 一 雅 ⑫	城 下 豊 生 ⑬	東 大 二 郎 ⑮
整 形 外 科	有 永 誠 ⑧	有 永 誠 ⑧	伊 崎 輝 昌
脳 神 経 外 科	風 川 清	上 野 恭 司 ⑫	堤 正 則
泌 尿 器 科	石 井 龍 ⑤	平 浩 志 ⑮	石 井 龍 ⑤
眼 科	武 末 佳 子 ⑪	藤 原 恵 理 子	武 末 佳 子 ⑪
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨
放 射 線 科	小 野 広 幸 ⑦		
麻 酔 科	水 城 透 ③		
病 理 部	原 岡 誠 司		

福岡大学病院曜日別外来診療担当医表

平成12年10月1日現在

		月		火		水		木		金		土	
内科	血液・ 糖尿病科	初診	高松、市川	小野・前川・内野・前田・安西(午後)	木村、安西	田村、明比・一瀬・シロヘル	安西、長野	一瀬・明比 (第1・3週)安西	当番医 (第2・4週)				
		再診	浅野	林	田村、長野	木村、眞宮・瓦・高松	向野(前)、市川、浅野						
	循環器科	医療相談	一瀬・高松(午後)	田村・鈴宮(午後)	木村・龍川(午後)	田村・長野(午後)	一瀬・木村(午後)						
		初診	田代、野田	浦田、辻(恵)	難谷、松永	明、出石	荒川、辻(恵)	松尾					
	再診	難谷、土屋、野元	浦田、山之内、松尾	当番医	当番医	当番医	明、松永、野田、田代						
	消化器科	初診	早田、後藤	向坂、山本	青柳、鈴木	渡邊、神田	前田、岩田	辻(博)	後藤、渡邊				
		再診	武田、林田	向坂・山本(午後)・鈴木	青柳、前田(午後)・辻(博)	神田(午後)・岩田	早田						
	腎臓内科 腎センター	初診	武田、林田	齊藤(衛)	野田(律)	兼岡	野田(律)						
		再診	齊藤(衛)	小河原、兼岡	村田、武田	当番医	野田(律)	当番医					
	呼吸器科	初診	吉田、渡辺	白石	白石	豊島	豊島						
再診		白石	白石	吉田、豊島	石橋、渡辺	石橋、渡辺							
神経内科	初診	藤野	西丸、山口	中島	山田、川島、島井、古川	高橋	橋本	西丸、川島、島井、藤野、山田、高橋					
	再診	古川・中島(午後)西丸	川島、島井、山田・高橋(午後)・橋本 山田(予約制)	中島(筋電図)	山田、西丸	島井(午後)・西丸							
健康 管理科	初診	健管当番医	健管当番医	健管当番医	齊藤	健管当番医	稲田	宗清、木原					
		再診	宗清、稲田	松永、中本、小川	宗清、稲田	中本、稲田			松永、齊藤				
	エコー 画像検査外来	初診	小川	中居	中居	中居	中居						
		再診	中居	中居	中居	中居	中居						
	東洋医学	初診	宮本(漢方・予約制・隔週)					清水・向野(漢)・針灸・予約制	向野(漢)・予約制				
		再診	宮本(漢方・予約制・隔週)					清水・向野(漢)・針灸・予約制					
	外科第一	初診	池田、志村、渡田(漢)、眞栄城 田中(伸)、中村、笠		池田、安波、渡田(漢)、志村 渡田(漢)、永井、中村		安波、志村、渡田(漢)、池田 田中(伸)、笠、松尾						
		再診	池田、志村、渡田(漢)、眞栄城 田中(伸)、中村、笠		池田、安波、渡田(漢)、志村 渡田(漢)、永井、中村		安波、志村、渡田(漢)、池田 田中(伸)、笠、松尾						
	外科第二	初診	白日、岩崎、吉永 酒井、米田、三上		白日、山下、川原 前川、岡林、馬場		白日、山下、川原 前川、岩崎、他(交代制)						
		再診	白日、岩崎、吉永 酒井、米田、三上		白日、山下、川原 前川、岡林、馬場		白日、山下、川原 前川、岩崎、他(交代制)						
整形 外科	小児外科	初診	浅部(午後予約)		浅部(午後予約)								
		再診	浅部(午後予約)		浅部(午後予約)								
	心臓血管外科	初診	予約再来	木村、岩瀬、立川、芝野	予約再来	田代、中村(寛)、岩瀬、重森	木村(予約のみ)	交代制					
		再診	柴田、前島	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	柴田、秋吉、松下、江島 神戸 肩再来:柴田、緑川 小児整形再来:井上	交代制						
	☆専門 外来	初診	柴田、前島	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	柴田、秋吉、松下、江島 神戸 肩再来:柴田、緑川 小児整形再来:井上	交代制						
		再診	柴田、前島	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	内藤、諫山、緑川、本庄 井上、副島、張 浅山、古賀 藤・張、佐伯 リウマチ再来:生野	柴田、秋吉、松下、江島 神戸 肩再来:柴田、緑川 小児整形再来:井上	交代制						
	形成 外科	初診・再診	大慈弥、江良	原賀	大慈弥、柳橋	柳橋、江良	柳橋、江良						
		午後専門外来	特殊小児外来:大慈弥	新塚タチノ浦費 スキャンタ:江良	大慈弥、柳橋 乳新再建:大慈弥 レーザー:柳橋、江良	柳橋、江良	柳橋、江良						
	産 婦 人 科	初診	瓦林	峰須賀	金岡	瓦林	峰須賀	交代制					
			再診	井上、宮川、牧野(都)	澄井、金岡 産科超音波外来 牧野(康)	本庄、澄井	井上、江口、本庄		澄井、牧野(康)、田村				
午後 専門 外来		胎毒・コルボ	峰須賀、江口、宮川			峰須賀、江口、宮川	井上、田村、錦本						
		不妊・内分泌	井上、澄井			井上、澄井							
悪露外来(2・4週の)		悪露外来(2・4週の)	井上、澄井			井上、澄井							
		分娩後1ヶ月検診	井上、澄井			井上、澄井							
中高年		中高年	井上、田村、錦本			井上、田村、錦本							
		産科超音波外来	井上、田村、錦本			井上、田村、錦本							
放射線科		初診	神宮、秋田	北川	岡崎、東原	神宮、秋田、東原							
		再診	神宮、秋田	北川	岡崎、東原	神宮、秋田、東原							
皮膚科	初診・再診	中山、桐生	中山、久保田	桐生	桐生、久保田	中山、桐生	久保田						
	再診	久保田、藤崎	清水、川内	力久、川内	清水	力久、藤崎	力久、川内、高橋						
眼科	初診	大島、加藤、松井	大島、林、大里	松垣、近藤、木下	大島、田丸、富田	大島、林、大里	松垣、近藤、木下						
	再診	内田、安田	予約再来	予約再来	予約再来	予約再来	予約再来						
泌尿器科	初診	入院中他科可	有吉、辻、田原	入院中他科可	大島、田丸、富田	入院中他科可	中島、道永						
	再診	予約再来	大島、道永	予約再来	大島、田丸、富田	予約再来	辻、田丸、富田						
耳鼻咽喉科	初診	加藤、柴田、藤田、小倉	加藤、柴田、藤田、小倉	加藤、柴田、藤田、小倉	加藤、柴田、藤田、小倉	加藤、柴田、藤田、小倉	加藤、柴田、藤田、小倉						
	再診	予約再来	予約再来	予約再来	予約再来	予約再来	予約再来						
小児科	初診	満留、濱本	満留、濱本	柳井	満留、濱本	満留、濱本	満留、濱本						
	再診一般	小川、柳井	山口	松本	小川、松本(4週のみ)	山口	柳井、小川、山口、松本						
小児科 ☆専門外来	初診	(発達・心理)	(血液)丹生、柳井	(腎臓)新居見 (小児喘息・アレルギー)	(発達・心理)藤川 (循環器)濱本 (発育・新生児)雪竹、森 (内分泌・代謝)廣瀬 (頭痛)満留	(発達・心理)藤川 (循環器)濱本 (発育・新生児)雪竹、森 (内分泌・代謝)廣瀬 (頭痛)満留	(発達・心理)藤川 (循環器)濱本 (発育・新生児)雪竹、森 (内分泌・代謝)廣瀬 (頭痛)満留						
	再診	藤川	(リウマチ・膠原病)廣瀬 (感染・免疫)山口	松本	(リウマチ・膠原病)廣瀬 (感染・免疫)山口	松本	(リウマチ・膠原病)廣瀬 (感染・免疫)山口						
脳神経外科	初診	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川						
	再診	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川	福島、岡、山本、継、平川						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊藤、福井						
	再診(予約制)	内田	内田	内田	内田	内田	内田						
精神神経科	初診(予約制)	石井、伊藤	西村、鈴木	鈴木	石井	西村、福井	伊						

福岡大学筑紫病院曜日別外来診療担当医表

平成13年4月1日現在

			月	火	水	木	金	土	備考
内科第一・内科第二・消化器科	内科第一		三好 大田(岳)	広木 (安藤)・八尋	三原(宏)	諸江 三原(宏) 藤見	広木 安藤	諸江・三原・三好 八尋・藤見・太田	内科第一はすべて循環器
	内科第二		(糖内)二宮	(糖内)佐々木 (呼) 有富	(糖内)二宮	坂口(三)	(糖内)森田	(糖内)加来 (呼) 有富	糖内:糖尿・内分泌 呼:呼吸器
	消化器科		(消)松井 (消)真武 (消)竹下 (肝)坂口(正) (肝)三原(一)	(消)八尾(恒) (消)櫻井 (消)西村 (肝)嶋野	(消)永江 (消)嶋津 (肝)戸原	(消)八尾(建) (消)宇野 (肝)光安 (肝)野間	(消)津田 (消)菊池 (肝)植木	(消)高木 (消)頼岡 (消)永本 (肝)田中(正)	消:消化管 肝:肝・胆・膵
	予約	A M	(循)広木 (循)太田(岳)	(循)広木 (糖内)二宮	(呼)有富	(循)藤見 (糖内)佐々木	(循)諸江 (循)三原(宏) (循)三好	(糖内)加来	循:循環器 糖尿病教室(火・水・金)
	再来	P M	(循)太田(岳) (糖内)二宮 (消)松井 (消)櫻井 (消)真武 (肝)坂口(正)	(循)広木 (循)八尋 (糖内)二宮 (消)八尾(恒) (消)西村 (肝)嶋野	(循)三原(宏) (糖内)二宮 (肝)戸原	(循)藤見 (消)八尾(建) (消)植木	(循)三原(宏) (糖内)佐々木 (糖内)加来 (消)津田 (消)菊池		
	X	線	櫻井、嶋津 永江、村上	八尾(建)、宇野 谷、久部、永本	櫻井 高木、加来 西村	津田、頼岡 西村、大谷 谷	松井、頼岡 大谷、村上 久部	真武、菊池 森田、竹下	
	内視鏡		八尾(哲) 野間 (田中) 八尾(建) 西村	松井、菊池 竹下、嶋津 頼岡	八尾(建) 野間、久部 山口、永本	真武、永本 竹下、高木	(櫻井)、真武 (宇野) 田中(正) 光安	(永江)、宇野 尾石(樹) (西村) 三原(一)	
	T C F		津田、菊池、西村 永江、宇野 尾石(樹)、嶋津	津田、菊池 頼岡、久部 宇野、西村 竹下、八尾(哲)	津田、本村 永江、高木 西村、久部	津田 菊池 永江	津田、高木 頼岡、菊池 真武、久部		
	U	S	戸原、(森田) 尾石(樹)、大谷、谷 (嶋野、田中)	戸原 村上 光安	植木、三原(一) 大谷 (坂口(三))、(森田)	嶋野、(田中) 三原(一)、村上	(放射線科) (加来)	嶋野 谷 野間、大谷	
	心エコー トレッドミル		(八杉)三原(宏)、安藤 八尋	太田 安藤	諸江 諸江	安藤、三好 三原(宏)	太田(岳) 藤見	(八杉)	
	E K G		太田(岳)、安藤	八尋	藤見	三好	三原(宏)	諸江	
	S R L		太田(岳)、安藤	八尋	藤見	三好	三原(宏)	諸江	
小児科	A M		津留、新居見(深町)	新居見(深町・福岡)	津留(深町・福岡)	津留(深町・福岡)	津留、新居見(福岡)	津留*、新居見** (深町・福岡) (松本・柳井)	*第2、4 **第1、3 藤川:第2・4水 柳井:第4土 松本:第2・4金 濱本:第2・4金 柳井:第2木 大府:毎週木 松本:月1回不定 ()は未定
	P M		(当番)	(当番)	(当番)	(当番)	(当番)		
	専門	A M	(低身・腎・夜尿) 津留		(低身・腎・夜尿) 津留		(低身・腎・夜尿) 津留		
		P M			(心理)藤川 (予防)深町、福岡	(神経)大府 (血液)柳井 (外科)松本	(循環)濱本		
外科	A M		河原 立川	有馬 二見	城下 武井 岩崎	古藤 東	有馬 二見	大河原 安成	
	P M								
整形外科			松崎、有永	塩田、古賀	松崎、伊崎、深水	有永、古賀	塩田、伊崎	ローテーション	
脳神経外科			田中、上野	ローテーション	田中、上野	ローテーション	風川、野元	野元、堤	
泌尿器科	A M		予約再来	平塚、石井、岡留	予約再来	平塚、岡留、平	予約再来	石井、岡留、平	
	P M			石井					
眼科			武末、今井、指原	手術日	向野、藤原、小林、指原	手術日	武末、藤原、今井	予約再来	
耳鼻咽喉科			森園	手術日	森園、宮城	手術日	宮城	予約再来	

事務局からの連絡とお願い

◆現在の会員数

今年24回生が卒業し、卒業生総数は2526人となりました。そのうち開業または自家勤務の方があわせて661人です。しかし死亡された方も既に18人おられます。医学部創設以来既に29年、来年は30周年を迎えます。10年遅れの同窓会も20周年です。嘗ては紅顔の美少年も、今ははや50の齢を重ねるほどになりました。

正会員業態別集計

(平成13年4月)

回	開業	家勤	勤務	休業	死亡	留学	未合	未確認	大学院	合計
1	41	4	16	1	1	0	0	0	0	63
2	47	10	22	3	1	0	0	0	0	83
3	40	11	36	1	2	0	0	0	0	90
4	64	15	38	0	0	1	0	0	0	118
5	47	18	44	0	3	1	2	0	0	115
6	50	16	51	2	1	0	1	0	0	121
7	48	9	66	3	1	0	0	1	0	128
8	40	22	84	3	2	0	0	0	0	151
9	28	11	73	1	0	1	1	1	0	116
10	22	9	69	1	0	0	1	0	2	104
11	12	13	78	5	2	4	2	2	0	118
12	0	6	70	1	1	5	0	0	0	93
13	9	9	85	2	0	3	0	6	1	115
14	7	4	80	3	1	2	1	0	1	99
15	4	4	74	3	0	4	0	3	3	95
16	2	13	90	3	0	3	3	3	10	127
17	2	9	78	1	1	1	0	0	12	104
18	0	1	73	1	0	1	0	2	21	99
19	0	3	79	3	0	0	2	0	18	105
20	0	0	92	2	0	2	3	2	8	109
21	0	0	89	0	1	1	1	0	2	94
22	0	1	90	0	1	0	4	0	0	96
23	0	0	90	1	0	0	2	0	0	93
24	0	0	77	0	0	0	13	0	0	90
合計	473	188	1644	40	18	29	36	20	78	2526

◆会報の原稿募集

会報の原稿を募集します。40, 50の年を重ねると識見は広がり、趣味も教養も深さを増された事と思います。そしてその一方、若かった学生時代の思い出を懐かしむ年頃でもあります。若い後輩に語りかけてください。励ましてください。先生方の経験や息吹を会報に注ぎ込んで、会報に深みと重みと味わいをもたらしてください。世界を股にご活躍のご様子や地域活動の様子なども是非知りたいものです。締切も字数制限も設けません。

◆会費について

一昨年会費体系が改訂され、入会費5万円（入学時）、学年会費1万円（2～6年）、年会費1万円（卒後11年目から）となりました。皆様のご協力のおかげで納入率もかなり高い位置を占めています。しかしきちんと納められる方と、そうでない方との間に給付面での差を付けるべきではないかという意見も出始めています。毎年7月、勤務医の方には定時の請求を差し上げていますので納入方よろしくお願い致します。

編 集 後 記

卒後20年近くたとうとしているのに学生時代の記憶は色濃く残っている。講義には比較的良く出た方だがその背景には、目標を見据えながらも自分の能力に自信が持てないという怯えがあった。そして経済的な迷惑をこれ以上親にかけられないという強い思いがあった。国試激励会の記事を読み、なんと心優しい企画であろうかと感心する一方で、医学部における勉強の動悸づけまでが同窓会の仕事になったのかとの失望感も禁じえない。大学院大学である米国の医学生と比較するまでもなく、残念な現実である。国試低迷の原因は無論ひとつではない。

しかし主役が寝ていては幕は上がらない。学生は責任転嫁せず、能力を過信せず、謙虚に現実と対峙すべきだろう。

（5回生 松田脳神経外科クリニック 松田年浩）

烏帽子会会報第30号

発行日 平成13年4月28日

発行人 高木忠博

編集人 井上隆則

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話.092-865-6353（直通）

092-801-1011（代表）

内線 3032

FAX.092-865-9484

印刷所 ロータリー印刷㈱